

名 称	第1回目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
日 時	令和7年2月26日（水）18:00～20:00
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下1階 第二建築調整室
出席者	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 助教 栗田和弥 氏
	NPO 法人 Green Connection TOKYO 代表理事 佐藤留美 氏
	東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科 坂井文 氏
	東京大学総合研究博物館研究事業協力者 須田真一 氏
	目黒区農業振興運営協議会会長 杉村昇一 氏
	NPO 法人 菅刈ネット21 理事長 坂本尚史 氏
	区民公募 石原令大 氏
	区民公募 中川求美 氏
	区民公募 吉川智美 氏
事務局	目黒区都市整備部みどり土木政策課 清水課長、三国係長、西尾係長、角田氏、鶴田氏
	株式会社ポリテック・エイディディ 伴、才木
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1：懇話会委員名簿 ・資料2：懇話会設置要綱 ・資料3：懇話会の公開等の取り扱いについて ・資料4：「目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略」改定について ・資料5：目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略改定スケジュール ・資料6：目黒区のみどりと生物多様性の現状と課題 ・資料7：計画改定の方針性 ・資料8：目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域改定に向けた意見
<p>【会議内容】</p> <p>1. 座長・副座長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座長は、目黒区みどりの実態調査にも携わり、区のみどりについて造詣が深い栗田委員を事務局が推薦し、各委員の承認を得た。 ・副座長は、住民参加型のみどりのまちづくりに造詣が深く、前回の目黒区みどりの基本計画改定にも係わられた佐藤委員を座長が推薦し、各委員の承認を得た。 <p>2. 座長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を兼ね、各委員および事務局の自己紹介を行った。 ・配布資料の確認を行った。 <p>3. 会議等の公開等の取り扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料3に基づき、会議等の公開等の取り扱いについて事務局より説明があった。 ・1名の傍聴希望があり、懇話会の承認を得た。 <p>4. 議事</p> <p>（1）目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの基本計画と生物多様性地域戦略はそれぞれ別の冊子体として出すのか、一つの冊子体にまとめるのか確認したい。（委員） <p>⇒現状は、一つの冊子体として最終的にまとめる予定となっている。（事務局）</p> <p>⇒他自治体の例では、環境基本計画の一部に生物多様性地域戦略が含まれるものもあるが、統合することでいずれかの内容が薄まる懸念がある。それぞれのボリューム感はどのように検討されているか。（委員）</p> <p>⇒具体的な構成は現在検討中だが、冊子の中でみどりの部分と生物多様性の部分を別々につくるのではなく、ちりばめて統合していくイメージを持っており、ボリューム感は検討中である。（事務局）</p>	

名 称	第1回目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
<p>局)</p> <p>⇒みどりの基本計画と生物多様性地域戦略のどちらに基づく取組か峻別できれば同じ冊子体でも問題ない。それが混在していると使いにくくなる問題があるので、うまく考えて構成されると良い。(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの基本計画と生物多様性地域戦略の統合についてメリットとデメリットがあると思うが、資料4に記載されている以上のことについて区の考えがあれば教えて頂きたい。(委員) <p>⇒みどりといきものを別々に進捗管理することについて違和感があった。庁内で検討した中でも別々に進行管理するものではないと意見がまとまった。いずれか一方が薄まることのないよう、各委員のご意見を頂きながらまとめていきたいと思っている。(事務局)</p> <p>⇒生物多様性国家戦略は2030年までの目標があり、みどりの基本計画と生物多様性地域戦略を一緒にして10年間の計画とすることは考えにくいところもある。5年ぐらいで見直したり、成果をきちんと記録したりしていくことは大事と思うので、それらも勘案のうえ取りまとめて頂きたい。(委員)</p> <p>(2) 目黒区のみどりと生物多様性の現状と課題について、(3) 計画改定の方角性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園でも生物多様性保全の場としての機能も最近求められるが、一方で、住人の方々の生物多様性以外のニーズに対してもケアする必要がある。各公園の利用状況や面積、周辺の環境など総合的に考えて、各公園で何ができるか今回のデータを使ってバランスの良い公園づくりをしてもらえればよい。その例として、菅刈公園は生物多様性保全と一般の利用が両立している。そこをモデルとして各公園で何ができるのか、検討できるとよい。(委員) ・緑被率やみどり率は上空からみどりの量を測っており、生物多様性や本来のみどりのあり方の示し方としては一面的である。みどりの質を見ていかないと、本質的な議論はできないのではないかと。生物保全の業界では、みどりやいきもの、自然のあり方は「保全」「再生」「創出」の3つに分類するが、目黒区はこれらすべての形のみどりがあると思う。各公園のみどりのあり方、生物多様性のあり方がそれぞれどれに当てはまるか、その後人の利用やいきものの利用のバランスをどのように考えるか整理すると、目黒区のみどりのあり方がより分かってくる。目黒区らしさが必要である。区の独特なものを評価し、守り育てるための地域戦略なので、そのことを強く意識して計画を作ると良い。(委員) ・東京グリーンビズの取組で、「農地を守る」「樹林地(屋敷林)を守る」とあるが、個人が守っているところは課税対象である。保存樹木等も伐採し家を建てるようなこともある。生産緑地の2022年問題に関して、面積要件が500㎡から300㎡に緩和されたが、その情報を知らない方も一部いらっしゃると思うので、普及啓発を進め農地保全を実現してほしい。(委員) ・みどり・いきものワークショップに参加した際も発言したが、相続により土地の分割が進むことで自ずとみどりは減っていく。緑化率の基準はあると思うが、一定規模以上の敷地は減税対象になるなど配慮をしていかないと維持していくのは難しいと思う。(委員) <p>⇒敷地の分割に関しては、目黒区では最低敷地面積を設定しており、第一種低層住居専用地域では70㎡以下に分割できないようになっている。緑化指導に関しては、敷地面積200㎡以上の事業については緑化計画書の提出を必須とし、接道緑化は7割以上の規定がある。(事務局)</p> <p>⇒税制法のメリットについて、区独自の制度等はあるか。(委員)</p> <p>⇒都市計画税、固定資産税については、23区では都税の扱いになり、区の方では優遇措置を持ち合わせていない。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ha以上の樹林は増えているが、ばらばらになった樹林が生長し足し合わせることで増えたのか確認したい。(委員) <p>⇒具体的な場所は東京大学のキャンパスで、樹木がもともとあったところが結合されて樹林になったところや、防衛省の技術研究本部などの樹木が生長し、大きな樹林が形成されたということがデータで出ている。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規公園6箇所(約1,830㎡)は、300㎡×6箇所なのか、大きさと数を教えてほしい。(委員) <p>⇒木造住宅密集地域内で、概ね200～500㎡の公園4箇所を整備したほか、平成30年に1,300㎡弱ほどの生産緑地を公園整備した。(事務局)</p>	

名 称	第 1 回目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
	<p>⇒生産緑地を買い取りしているのは良いことだと思う。(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災上の公園の扱いをどのように考えているか教えてほしい。(委員) <p>⇒木造住宅密集地域の公園整備を進めていく中で、ワークショップなどやると区民の防災意識が高く多くの意見を頂く。その中で、かまどベンチや防災井戸を作らなくていいのかというご意見もある。一方で、区の地域防災計画では、小さな公園に集まって活動するという計画はない。非常時には広域な場所に集まり、そこから地域避難所に避難すると十分な活動ができるという防災計画になっている。ただ、阪神淡路大震災のときに小さな公園で炊き出しが頻繁に行われていた事例を区民の方も知っており、町会がきちんと管理や活用する意向のある地域の公園に限り、かまどベンチなどの整備を進めている。木密地域では 200～300 ㎡の公園が多いので、一時避難ができる公園として必要に応じて施設の整備等を進めているという考え方である。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園利用について休日に区外居住者が多く利用しているのは、わざわざやってきて何をしているのか、その辺りがわかれば、なぜ区外居住者が多いのか理由がわかるので教えてほしい。(委員) <p>⇒中目黒公園では、スポーツ広場があり少年サッカーでよく使っている。人流ビッグデータを用いているのでそのような利用者の傾向が表れたと思われる。また、その他にも「花とみどりの学習館」という施設もあるが、定期的に講座を行っており区内外から多くの方が利用しており、データに反映されたと考察している。(事務局)</p> <p>⇒青系が区外居住であり、全体的に区外の方が使っているように見える。(委員)</p> <p>⇒品川区など隣接しているところの影響があるのではないかと。区内・区外というより半径などで分析したほうが、意味があるかもしれない。(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、みどりの基本計画と生物多様性地域戦略の統合の話があったが、それぞれ根拠法がある中で、区としては計画を作った後に、これらを根拠に国より助成金を得たりする。みどりと生物多様性は切っても切れないので一緒にした方が美しいが、戦略的にやっていこうとすると難しいところもあるので、その辺りについて区の方で具体的な方向性を示して頂いた方が我々も議論がしやすい。(委員) ・生物多様性国家戦略の目標年は 2030 年であり、東京都のネイチャー・ベースド・ソリューション(NbS) 定着期間も 2030 年を区切りとしているのに対し、今回の改定計画は 2026～2036 年の計画期間なので、期間をまたぐようなところは気になる。国や都の制度に乗っかるのか乗らないのか、戦略的な部分について現時点でお話できることがあれば話して頂いた方が議論しやすい。(委員) ・目黒区の強みを明確にし、目標を立てて、公園毎の役割分担をきちんとしてほしい。現状調査の内容が生物多様性に寄り過ぎているように感じる。バランスを考えすぎて虫取りもできない中途半端な公園が多く、しっかりと使い分けてほしい。全体的に質が一様で、質が低いと感じてしまうところもあり、メリハリをつけて役割分担をしてほしい。区民のニーズの中でレクリエーションの場所がほしいとか子育ての場所が欲しいというところに対して、どういうふうに答えていくのかが見えなかった。人流データで年代を分けているが、年代というよりカテゴリーのようなどころをまとめた方が良いと思っている。P-PFI が目黒区でなぜ広まっていけないのか疑問に感じている。レクリエーションや子育てについてどう答えていくかという点と、公民連携の状況について教えてほしい。(委員) <p>⇒P-PFI については、碑文谷公園で公民連携の取組ということで、令和 4 年にサウンディング調査、令和 5 年にトライアルサウンディングでオープンマルシェのような取組を行った。土日 2 日間で推計約 1 万 2 千人の方が往来されたぐらいのポテンシャルの高い公園であるため、公民連携の検討を進めていたが、周辺住民のよく公園を利用される方からは今のままが良いというご意見もあり、意見交換を進めている。地域だけではなく、より広く意見交換をしようということで、3 月 8 日(土)14 時より、碑文谷公園内の特定の場所でできることのアイディアを募る機会を用意しているので是非参加して頂きたい。広く意見を募って良い公園にしていきたい。(事務局)</p> <p>⇒子育てについては、区内の公園で幼児用の遊具は多いが、乳児向けの遊具は少ないという意見がある。リノベーション工事に、ワークショップに育児中の方の参加が難しいことも承知しているので、そうした点も留意しながらご意見を取り入れていく取組を進めている。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校にみどりが少ないと思っている。建替えの際にビオトープをつくるなど、統廃合のときな

名 称	第 1 回目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
	<p>どにも配慮をお願いしたい。(委員)</p> <p>⇒現在、向原小学校の建替えが進んでいるが、建替え後もビオトープを残す方針で事業を進めている。このように既存のビオトープがあるところは、改築の際も整備するように配慮している。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料 7 の関連計画がすべて一括りにされているが、例えば環境基本計画は上位計画に位置付けられる場合もあるので、その辺りの関係性がわかるように整理して頂きたい。(委員) 25 年ぐらい前に目黒区職員向けに市民参加でみどりをどう守っていくのかといった研修を行った。駒場野公園の自然観察舎や生物多様性保全林事業など、目黒区は先進的な取り組みを行っている。このような目黒区の取組について一度棚卸しをしてはいかがが。現行計画も委員会で毎回手に取れるように置いて頂いて比較できると話しやすい。現行計画の取組が履行されているかどうかなど細かく見られると良いと思う。(委員) 生物多様性については 3 つのステップを念頭に取組を進めているが、「生態系の回復」、「普及啓発（環境教育）」、「市民協働で保全・活用」の 3 つのステップがあれば生物多様性は非常に躍進する。目黒区の取組を 3 つのステップに当てはめると、どこが足りないかといったことも見え、目標を立てる際も戦略的に計画を作っていけると思う。(委員) 利用と保全のバランスを考えていくべきで、ニューヨークは大都市に思えるが、アーバンレンジャーという環境教育をするレンジャーが 100 名、市役所の職員として活動している。マンハッタン 20 名、ブルックリン 20 名というように、身近な公園でレンジャーが環境教育をしている。都会の中の公園であっても、人もいきものも活用していて、おしゃれな目黒区ならではの戦略づくりを区民の皆さんと一緒にやっていけないかと考えている。(委員) 東山公園のビオトープは周りが柵で囲まれていて、区民がアクセスできないようになっている。数週間に 1 回程度の頻度で解放されているときもあるが、なるべく区民がビオトープにアクセスできるような環境があると良い。また、東山小学校には元々ビオトープがあったが、改修工事後になくなってしまったので、ビオトープの創出が実現できると良い。(委員) 目黒区生物多様性地域戦略の目標として、「野鳥の年間確認種数」や「指標在来生物の分布率」など、こういった指標が現行計画に入っている時点で目黒区は先進的である。市民参加型の生物調査を率先して始めたのも目黒区である。他区では生物調査を行っても区の施策に反映されないこともある。菅刈公園のように最初から区民が入って生物多様性に配慮した公園整備を行ったところは良い環境ができており、昔からある大規模緑地よりも昆虫の種数をはるかに多くなっている。ベースとしての生物多様性も非常に高い。駒場農学校があった当時（1800 年代）の標本が東大博物館で保管されているほか、衾町では 1930 年代はトンボの宝庫と知られていて、現在も標本が残っている。ケルネル田んぼのように、台地を開析してできた谷戸地形が残っている地域は区部では目黒区ぐらいではないか。そういう強みをうまく活かすと良い。(委員) 長く目黒区に携わっておられる方ほど、目黒区の良さがわかると思う。どれだけ頑張っているか浮き彫りにするためにも、区外からのものの見方もあると思うので、他の自治体との比較もお願いしたい。10 年間の計画も必要かもしれないが、5 年など、ある程度のスパンで切り、東京都や環境省にアピールできると良い。情報発信の弱さについて指摘があったが、区民だけの話しではなく、東京都や環境省、あるいは英語に翻訳すれば世界中に発信できる内容になる。そうしたところまで繋げていくとすごく良い計画になると思う。(委員) <p style="text-align: right;">以 上</p>